

# 週間展望(12/6～12/12)

～ WEEKLY FORECAST ～

調査課

菊川 弘之



PHOTO by KIKUKAWA

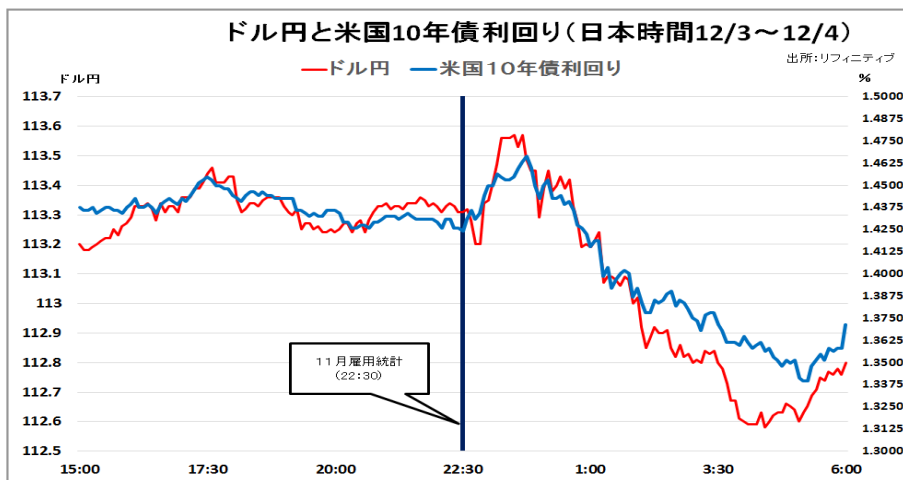
当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期しておりますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

# 週間展望(12/6～12/12)

## ～ドル円～

### 調査課

菊川 弘之



### 【前週レビュー】

- 先週レポートで《新たな変異株の特性は感染力が高いこと以外は不透明で、ワクチン効果や、致死率・重症度化率などが判明してこない」と、リスクオンからの良い金利上昇にはなり難い地合い。》としたが、先週は、オミクロン株の出現で不安心理が広がる中、パウエルFRB議長が、債券購入縮小の時期を前倒しする、インフレについての一時的との文言を削除することを検討などタカ派発言を行った。米早期利上げ観測は、オミクロン株出現で後退したもの、パウエルFRB議長発言で再び復活と大きく揺れ、方向性が見出しにくい状況となった。

### オミクロン株出現も 利上げ観測は継続

- 11月30日のパウエル議長の議会証言では、最近の新型コロナウイルスの感染者数の増加やオミクロン株の出現は雇用や景気に下振れリスクをもたらし、インフレの不確実性を高めるとの認識を示した。また、「物価上昇が“一過性”としてきた表現を外すよいタイミングがきた」と発言して、インフレへの見方をこれまでから軌道修正した。また、「量的緩和の縮小(テーパリング)を想定よりも数か月早く終了させることが望ましい」「次回の米連邦公開市場委員会(FOMC)で資産購入ペースの縮小加速について協議する」との見解を示した。
- 先週末は、11月の米雇用統計で非農業部門の雇用者数は21万人増と市場予想(55万人増)を大幅に下回った。ただ、労働参加率は上昇し、失業率は低下。強弱入り交じる内容だったが、FRBが金融政策の正常化を加速させる見通しに変わりはないと受け止められ、円売り・ドル買いが先行した。
- ただ、朝方は上昇していた米長期金利が午後にかけて大きく低下するにつれ、日米金利差拡大の見方が薄れ円買い・ドル売りが優勢となった。
- CFTC建玉明細(11/30現在)は、78,866枚の売り越し。前週(97,253枚の売り越し)から縮小。

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

# 週間展望(12/6～12/12)

～ ドル円～

調査課

菊川 弘之



## 【今週見通し・戦略】

- 米テーパリングの早期終了観測や、金融政策正常化見通しと、オミクロン株への警戒感との綱引き相場となりそう。バイデン米大統領は3日、2022会計年度(21年10月～22年9月)予算成立までの「つなぎ予算」を延長する法律に署名、成立した。つなぎ予算の期限は従来の12月3日から22年2月18日に延長された。予算失効により政府機関が閉鎖される事態は当面回避される。

## 綱引き相場

- オミクロン株の重症化率が低いとかワクチン開発などが報じられ、変異株への警戒感が後退すれば、ドル買いとなるが、状況が明確になるには、まだ時間が掛かりそうで、週末の雇用統計が強弱交錯していたことから、上値は抑えられ易いか？オミクロン株に関する報道、米経済指標や米国株や米長期金利動向などを眺めながら、112～113円台を中心に一進一退の動きが続くとみられる。
- 今週で注目される経済指標は、10日の米11月消費者物価指数。事前予想は前年比+6.7%(前回+6.2%)、食品とエネルギーを除くコアは前年比+4.9%(前回は+4.6%)となっている。11月の米消費者物価指数の+6.2%は約31年ぶりの高い伸びとなったが、今回はそれを超える予想となっている。
- 予想通りの高水準なら、テーパリングの早期終了に加えて、利上げ前倒し観測につながり、ドル買いにつながる可能性。株価が大きく崩れなければ、114円台もあるかもしれないが、年末要因でポジション調整や、ファンドのリバランスが出易い時期でもあり、ドルの上値は限定的か？
- 15日のFOMCで、具体的なテーパリング終了時期や、縮小幅まで示してくるかは不透明。今回はFOMCメンバーの金利見通し(ドット・プロット)が公表される。9月FOMCのドット・プロットでは来年の利上げ予想は半々で、中央値は2023年であった。恐らく今回は大方が来年の利上げ予想に変更して来るものとみられている。

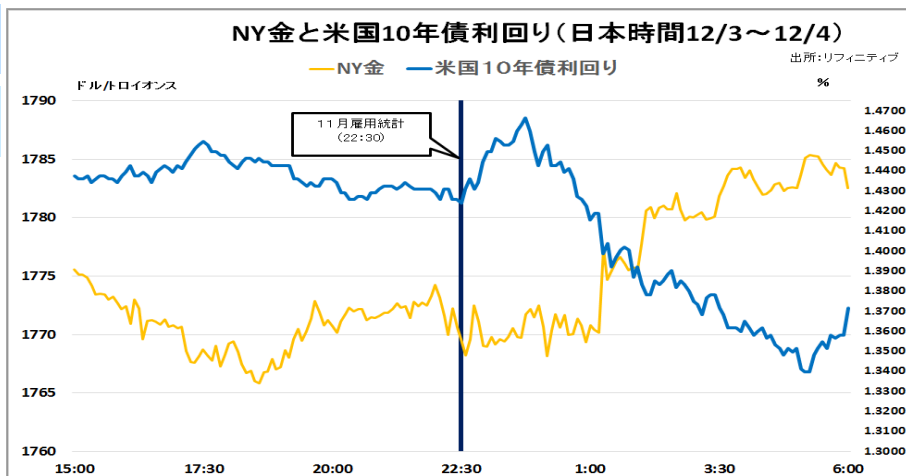
当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

# 週間展望(12/6～12/12)

## ～ 貴金属市場 (金：GOLD) ～

調査課

菊川 弘之



### 【前週レビュー】

- 先週レポートで「8月安値を起点とした上昇トレンドと重なる一目均衡表の雲に下支えられている状態だ。相次ぐ雲のねじれの時間帯(11月末～12月初旬)で、底打ち反転できるか否かがテクニカル面からの焦点。既に、8月安値～11月高値までの上昇に対する半値押しを達成している。同水準は価格帯別出来高の厚い下値支持である。もう一段の押し目があっても、61.8%押し(1753.7ドル)水準では、バーゲンハンティングも出てきそうだ。」としたが、先週は、「オミクロン株」に対する懸念を受けて押し目を買われる場面も見られたが、パウエルFRB議長の議会証言でのタカ派発言をきっかけに戻りを売られた。

NFPは弱気  
失業率は改善

- 先週末のNY金(2月限)は、反発した。11月の米雇用統計で失業率は低下したものの、非農業部門雇用者数(NFP)の伸びが弱かったことで、長期金利が午後にかけて大きく低下し、金の投資妙味を意識した買いが入った。NFPの伸びは夏頃から鈍化する傾向にあり、今月のFOMCで資産購入ペースの縮小が早まるのか不透明になり、来年の米利上げ観測もやや後退。
- 各国で次々とオミクロン株が見つかったことも安全資産である金の支援要因。米国では6州で感染者が見つかり、感染力が強いことからデルタ株に置き換わるのは時間の問題とみられている。欧州ではデルタ株の流行が拡大している。ドイツの感染者数は過去最高水準で高止まり。
- CFTC建玉明細(11/30現在)は、225,860枚の買い越し。前週(234,411枚の買い越し)から縮小。

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

# 週間展望(12/6～12/12)

## ～ 貴金属市場(金: GOLD) ～

### 調査課

菊川 弘之



### 【今週見通し・戦略】

- 米テーパリングの早期終了観測や、金融政策正常化見通しと、オミクロン株への警戒感との綱引き相場となりそうだ。ただし、状況が明確になるには、まだ時間が掛かりそうで、週末の雇用統計が強弱交錯していたことから、オミクロン株に関するニュース報道、米CPI(12/10)などの経済指標を受けた米国株や米長期金利動向などを眺めながら、様子見ムードが高まっていくか？
- 変異株への警戒感が後退すれば、市場の関心は、再び、米国の出口戦略の行方に移行していく。11月の米消費者物価指数は約31年ぶりの高い伸びとなったが、今回はそれを超える予想となっており、予想通りの高水準なら、テーパリングの早期終了に加えて、利上げ前倒し観測につながる可能性。
- 15日のFOMCで、具体的なテーパリング終了時期や、縮小幅まで示してくるかは不透明。今回はFOMCメンバーの金利見通し(ドット・プロット)が公表される。9月FOMCのドット・プロットでは来年の利上げ予想は半々だったが、今回は大方が来年の利上げ予想に変更して来るものとみられている。
- バーナンキショック以降の「テーパリングから利上げ」に至る過程では、テーパリング開始で「金価格上昇」、その後、利上げ観測の高まりから押し目を付けるも、利上げ開始と共に「金価格は上昇」に転じた。今回も、金利上昇観測が高まると、金に売り圧力が高まると思われるが、そこで出た安値が中長期的な買い場を提供することになるだろう。
- 8月安値～11月高値までの上昇に対する61.8%押し(1753.7ドル)水準で、下支えられている。価格帯別出来高の厚い200日移動平均線水準を早々に回復できるか否かが焦点。

### 200日移動平均線の 攻防戦

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

# 週間展望(12/6～12/12)

## ～ 貴金属市場 (白金 : Platinum) ～

調査課

菊川 弘之



### 【前週レビュー】

- 先週レポートで「JPX白金標準先物も、変化が起こりやすい基本数値・対等数値の時間帯(11月22日の週)に、10月28日安値(3662円)を割り込み、テクニカル的な売り圧力が高まりやすい。
- 「金・白金」の鞘は、「金買い・白金売り」の状態が継続。鞘のボリンジャーバンドはバンドウォークを形成中。リスク回避から金は買われても、白金は売られやすい」としたが、先週は、内外共に新たな変異株「オミクロン株」に対する懸念やパウエル米連邦準備理事会(FRB)議長のタカ派発言を受けて軟調となった。
- 世界保健機関(WHO)は、新型コロナウイルスの新たな変異株「オミクロン株」が国際的に拡散する公算が大きく、世界規模のリスクは「極めて高い」との分析を発表。米バイオ医薬大手モデルナの最高経営責任者(CEO)が現存の新型コロナウイルスワクチンについて、オミクロン株への効果はデルタ株と比べて低下する恐れがあると述べた。
- 先週末のNY白金(1月限)は、続落。11月の米雇用統計で非農業部門雇用者数(NFP)の伸びが鈍化したことが景気見通しを圧迫し、プラチナの工業用需要の回復期待を後退させた。11月の米ISM非製造業景気指数は統計開始以来の最高水準となったが、雇用回復は遅れており、オミクロン株が流行しつつあり、来年度以降の景気見通しが不透明になっている。
- 一方、NFPが弱く、今月の米連邦公開市場委員会(FOMC)で資産購入ペースの縮小が早まるのか不透明になったとみられていることは支援要因。来年の早期の米利上げ観測もやや後退した。
- CFTC建玉明細(11/30現在)は、8,948枚の買い越し。前週(13,135枚の買い越し)から縮小。

オミクロン株や、  
米利上げ観測を嫌気

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

# 週間展望(12/6～12/12)

## ～ 貴金属市場(白金: Platinum) ～

調査課

菊川 弘之



### 【ノリリスク見通し】

- ロシアの鉱山会社ノリリスク・ニッケルがICBCスタンダードバンクと作成した報告書によると、2022年はプラチナとニッケルの供給過剰、パラジウムの供給不足が予想された。2021年は自動車生産が半導体不足で予想以上に抑制されたことが指摘され、プラチナよりもパラジウムへの影響が大きかったとした。2021年のパラジウムは6.2トンの供給不足。2022年は下半期に半導体不足が改善するが、自動車生産が新型コロナウイルスのパンデミック前の水準に戻るのには2023年になるとし、9.3トンの供給不足を予想。一方、2021年のプラチナは投資需要を除くと28.0トンの供給過剰になった。南アの供給増加が背景にある。2022年は供給が引き続き増加し、31.1トンの供給過剰予想。

### 【今週見通し・戦略】

- パウエル米連邦準備理事会(FRB)議長は上院銀行委員会で証言し、経済が堅調でインフレ高進が来年半ばまで持続すると予想されるなか、次回のFOMCで大規模な債券買い入れプログラムの縮小加速を検討すべきと述べた。またインフレの高まりが「一過性」という表現について、現在の高水準にあるインフレ率を説明する上でもはや正確でないとした。翌日の証言では、米経済が力強く成長し需給の不均衡が当面続くことを考慮し、政策当局者はインフレが来年後半に想定通りに鈍化しない場合に対応する準備をしておく必要があると述べた。これが、オミクロン株や、雇用統計を始めとするマクロ経済指標を受けて、12月のFOMCでどう変化するのが焦点。
- 「金・白金」の鞘は、「金買い・白金売り」の状態が継続。鞘のボリンジャーバンドはバンドウォークを形成中。株価の下げ止まりが確認されないと、値頃だけでは買い難い地合い。

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期しておりますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

# 週間展望(12/6～12/12)

## ～ ゴムRSS 3号先物～

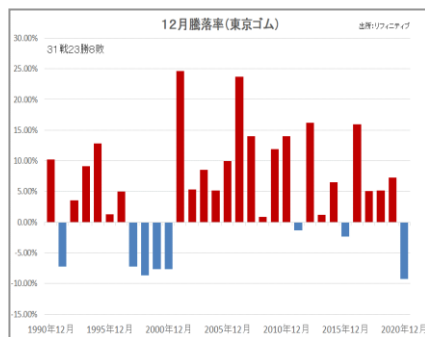
### 調査課

菊川 弘之



### 【前週レビュー】

- 先週レポートで「米感謝祭休場で薄商いの中、南アで確認された新型コロナウイルスの変異株発生を受け、世界景気への影響が懸念され、金融市場、商品市場全般にリスクオフの動きが加速しており、一旦は、下値試しが先行しそう。」としたが、先週の先限は、上海ゴムが取引所在庫増加や新車販売台数の減少から下落に転じると追従安となった。



### 【今週見通し・戦略】

- JPX市場は、期近は順翰幅縮小、中限は順翰幅拡大、期近は産地対比で割安感から一定の買い気がある状況も、流動性低下に伴い、玉次第の展開の側面もあり、方向感が読みづらい。
- 例年であれば、過去の季節傾向から12月は、年間で最も騰落傾向の強気優位な時間帯だが、今年は限月間で優位性にも変化が出そう。
- 産地対比では期近割安圏、中限は割高圏。
- 北京オリンピックを控えた中国での感染状況にも注意したい。「環球時報」は無観客開催の可能性も指摘している。
- 産地タイでは11月30日に非常事態宣言を22年1月末まで2カ月延長することを決めた。12月はゴムの増産期に当たるが、コロナ変異株の影響によっては生産に支障を来す可能性が出ている。

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはおりますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

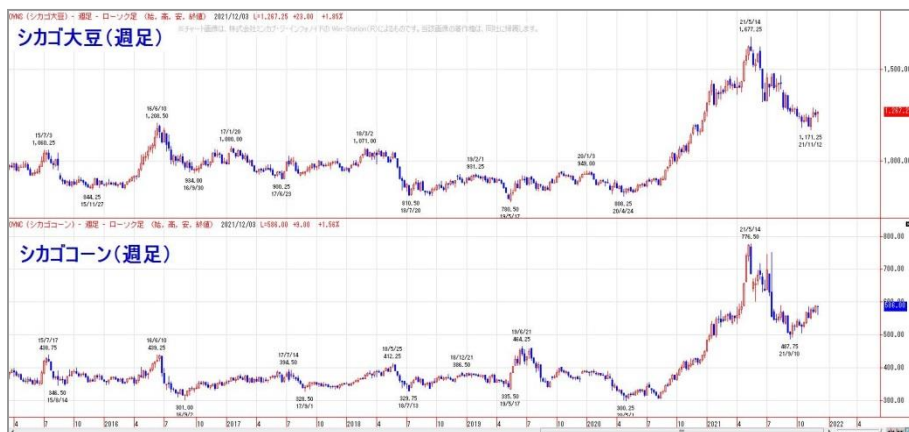
## 週間展望(12/6～12/12)

### ～ 穀物市場(大豆・コーン) ～

#### 調査課

菊川 弘之

#### 【前週レビュー】



- 先週レポートで「ラニーニャ現象が発生した年の12月から翌年2月は、ブラジル北部で多雨、低温となる傾向があり、生育に悪影響が出る可能性はあるものの、目先は、南アで確認された新型コロナウイルスの変異株発生を受けた金融市場の波乱が収まるまでは、値頃感は無用の展開。南米産の順調な生育もあり、新規の買いは、金融市場の落ち着きを待ってからが無難」としたが、先週のシカゴ穀物は、価格の下落に伴い、大口成約が見られるなど需要の根強さが材料視された。
- 先週末のシカゴ大豆(1月限)は、大幅続伸。米農務省が前日に続いてデイリーでの大口成約を発表したことが好感された。また、ブラジル南部の産地では今後10日間は少雨傾向が続くとの予測が発表されたことも支援要因となった。
- シカゴコーン(12月限)は続伸。小麦価格上昇で、飼料用穀物の中でコーンに割安感が強まっていることが強気材料となった。また、ブラジル南部での少雨傾向や、大豆市場の堅調な足取りも買いを後押しする要因となった。
- 週間純輸出成約高(11月26日までの週)  
大豆:101万5400トン(事前予想レンジ:90万～180万トン)  
コーン:102万1100トン(事前予想レンジ:95万～200万トン)
- 9日にUSDA需給報告。オミクロン株に対して神経質になっている中、需給報告は生産、単収は時期的に大きな修正はないが、需要は修正の可能性あり。南米生産国の生育が順調に進行していることも上値抑制要因。
- 7日前後に大手通信社が集計した事前予想が出る予定。事前予想との乖離に注目。ハーベストローは確認しているものの、戻りは売られやすいか？

#### 【今週見通し・戦略】

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはおりませんが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

# 週間展望(12/6～12/12)

## ～ 原油市場 (ドバイ原油・CME原油指数) ～

調査課

菊川 弘之



### 【前週レビュー】

弱気材料  
出尽くしか？

- 先週レポートで「原油市場の弱気要因として急浮上しているのが、南アフリカで新たな変異ウイルスが確認され、金融市場がリスク回避に傾いていることだ。世界的にロックダウンが再開するような事態となると、中東の地政学リスク等がなければ、10月高値が当面の天井候補となる」としたが、「OPECプラス」は2日、現行の原油の増産(協調減産縮小)を、2022年1月も続けると決めた。毎月日量40万バレルずつ増産する従来の方針見送りも想定されていた為、発表後は一時的に下げたが、売り一巡後は材料出尽くしに伴う買いが次第に優勢となった。
- 先週末のNY原油(1月限)は、反落。米雇用統計で非農業部門の雇用者数は前月比21万人増と市場予想(55万人増)を下回った。半面、労働参加率が小幅に上昇するなか、失業率は大幅に低下。強弱入り交じる内容だったが、米景気の回復を背景とした原油需要の堅調さが続くとの見方や株高から買いが先行した。
- ただ、NYダウが午後にかけて大きく下落。リスク回避姿勢が強まり、売りが優勢となった。オミクロン株が各国に拡散し、流行を広げる気配があることが相場を圧迫した。
- オミクロン株が見つかったことで需要回復に急ブレーキがかかっており、来年にかけて供給過剰が悪化する可能性がある。米国が戦略石油備蓄(SPR)の放出を実施に移すとしていることも、供給過剰に拍車をかける見通し。
- 米ISM非製造業景気指数は過去最高水準だったが、特に材料視されていない。
- CFTC建玉明細(11/30現在)は、387,234枚の買い越し。前週(407,657枚の買い越し)から縮小。

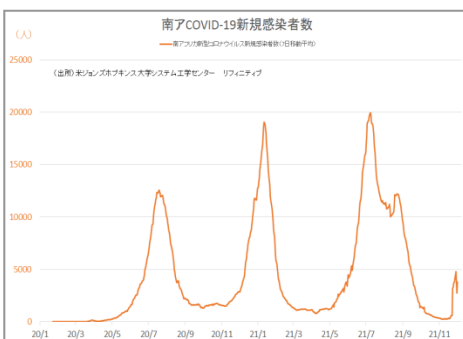
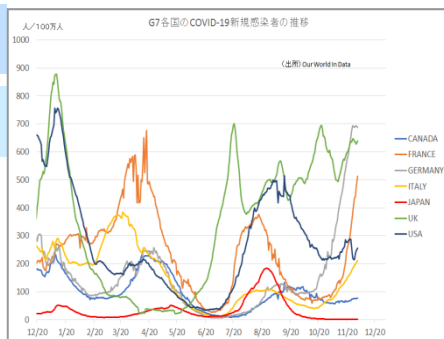
当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

# 週間展望(12/6～12/12)

## ～ 原油市場 (ドバイ原油・CME原油指数) ～

### 調査課

菊川 弘之



### 【今週見通し・戦略】

- 「OPECプラス」は声明文で「引き続き市場を注意深く監視し、必要に応じて直ちに調整を行う」としており、オミクロン変異株が需要に及ぼすリスクが明確になれば、供給拡大をいつでも見直す可能性があることを示した。
- 原油相場はオミクロン株の感染拡大による需要減少や、FRBによるテーパリング(量的金融緩和の縮小)加速への警戒感から短期間に大きく下げていた事もあり、目先の反発を見込んだ買いが入りやすかった。
- 協調減産縮小(事実上の増産)見送りが予想されていたが、見送れば米国とサウジアラビアの関係がこじれる可能性があった。「OPECプラス」は、減産縮小しても価格が崩れなかったことで、バイデン政権のメンツを守りながら暴落を回避した格好となっている。
- NY原油は、12月2日に長い下ヒゲを付けて陽線引けしており、心理的節目60～65ドルが下値支持として意識されている。
- 11月29日からイランと欧米の核合意復帰交渉が開始したが、国際原子力機関(IAEA)は1日、イランが最新型の遠心分離機を使い濃縮ウランの製造を開始したと発表。ブリンケン米務長官は、楽観になる理由はさほどないと述べ、イランが誠意を持って対応するかどうかは数日以内に判断できるとの見方を示している。7日にウクライナ問題を巡り、米ロ首脳会談も予定されている。今年は天然ガスの動きが、原油に強い影響を与えているがゆえに、ベラルーシ問題に加え、ウクライナ問題にも注意したい
- 「オミクロン株」は感染力は強いようだが、重症化率は低い模様で、ワクチン効果などが徐々に明らかになってくると、パニック売りから底値固めへ移行していきだろう。北半球最大の需要期を前に、OPEC減産順守率も高いはまだ。
- テクニカル面からは、上値抵抗となっている価格帯別出来高の厚い70ドル水準を回復できるか否かが焦点。上抜けてくると、底打ち感が高まることになる。

イラン核合意・ベラルーシ  
難民問題・ウクライナ  
問題は波乱要因

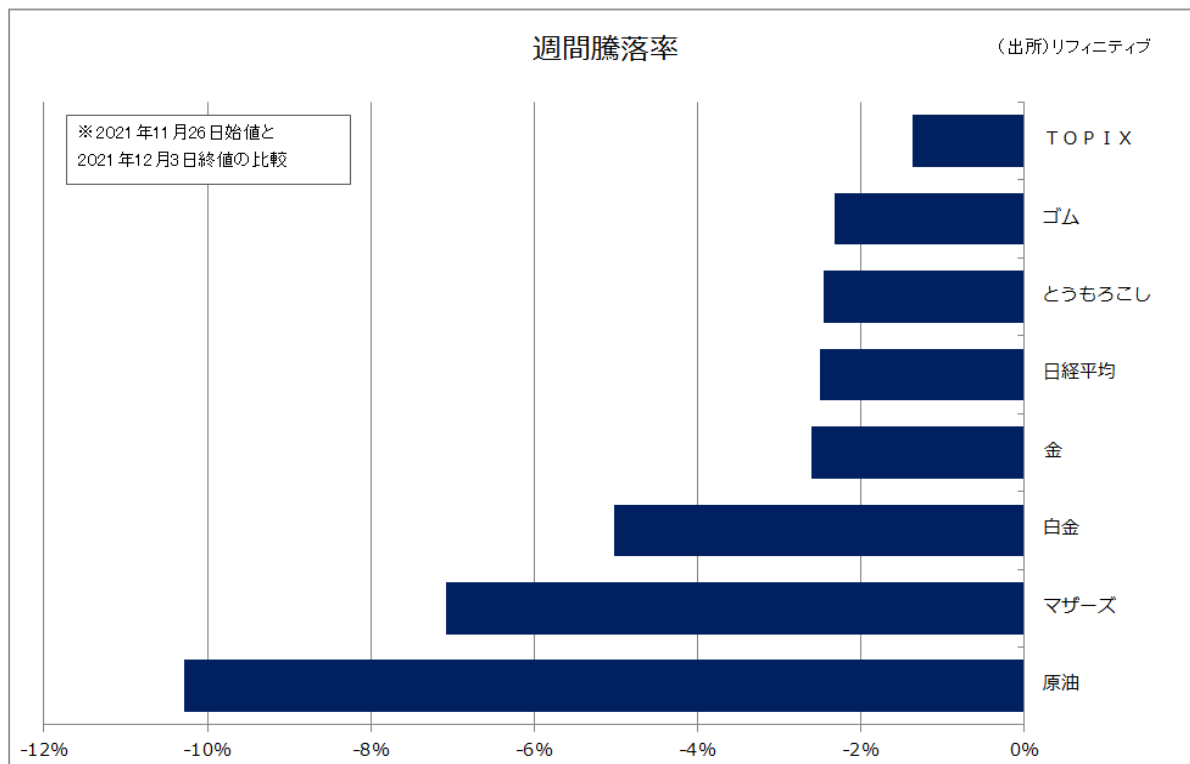
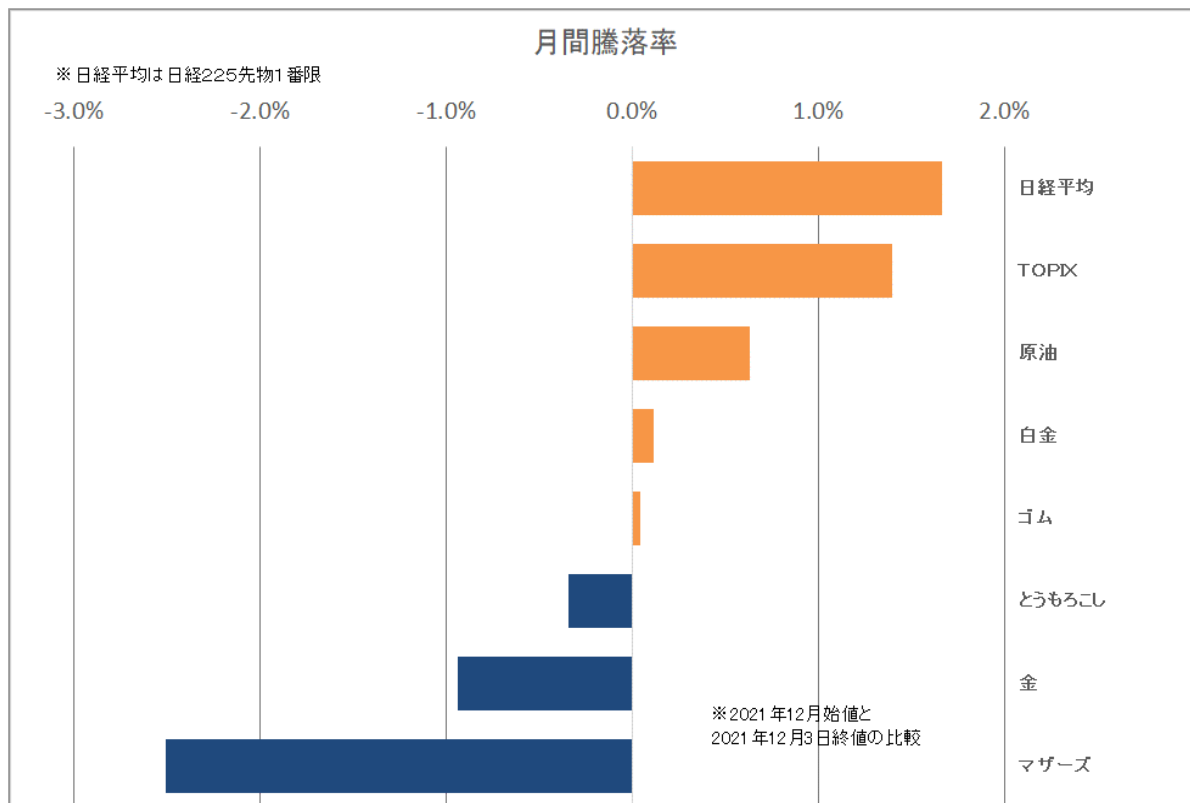
当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはおりませんが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

## 【週間行事予定(12/6～12/12)】

| 日付        | 時刻    | 国名   | 対象      | 経済指標・行事予定                        | 前回            |
|-----------|-------|------|---------|----------------------------------|---------------|
| 12月6日(月)  | 16:00 | ドイツ  | 10月     | 鉱工業受注(前月比)                       | 1.3           |
|           | 18:30 | ユーロ圏 | 12月     | ユーロ圏投資家センチメント指数                  | 18.3          |
|           | 18:30 | 英国   | 11月     | マークイット / CIPS 建設業購買担当者景気指数 (PMI) | 54.6          |
| 12月7日(火)  | 8:30  | 日本   | 10月     | 全世帯消費支出                          | -1.9%         |
|           | 16:00 | 英国   | 11月     | ハリファックス住宅価格(前月比)                 | 0.9%          |
|           | 16:00 | ドイツ  | 10月     | 鉱工業生産(前月比)                       | -1.1%         |
|           | 19:00 | ユーロ圏 | Q3      | 国内総生産 (GDP) 改定値                  | 2.2%          |
|           | 19:00 | ドイツ  | 12月     | ZEW 景気期待指数                       | 31.7          |
|           | 19:00 | ドイツ  | 12月     | ZEW 現況指数                         | 12.5          |
|           | 22:30 | 米国   | 10月     | 貿易収支 (USD)                       | -80.9 (十億)    |
|           | 22:30 | 米国   | Q3      | 労働コスト 改定値                        | 8.3%          |
|           | 22:30 | 米国   | Q3      | 労働生産性 改定値                        | -5.0%         |
|           |       | 中国   | 11月     | 輸出(前年比)                          | 27.1%         |
|           |       | 中国   | 11月     | 輸入(前年比)                          | 20.6%         |
|           |       | 中国   | 11月     | 貿易収支 (USD)                       | 84.54 (十億)    |
| 12月8日(水)  | 5:00  | 米国   | 10月     | 消費者信用残高                          | 29.91 (十億)    |
|           | 8:50  | 日本   | 10月     | 経常収支                             | 1,033.7 (十億)  |
|           | 8:50  | 日本   | Q3      | 国内総生産 (GDP) 2次速報値                | -0.8%         |
| 12月9日(木)  | 0:00  | 米国   | 10月     | JOLTS 求人件数                       | 10.438 (百万)   |
|           | 9:01  | 英国   | 11月     | RICS 住宅価格指数                      | 70            |
|           | 10:30 | 中国   | 11月     | 生産者物価指数 (PPI) (前年比)              | 13.5%         |
|           | 10:30 | 中国   | 11月     | 消費者物価指数 (CPI) (前年比)              | 1.5%          |
|           | 16:00 | ドイツ  | 10月     | 輸出(前月比) 季調値                      | -0.7%         |
|           | 16:00 | ドイツ  | 10月     | 輸入(前月比) 季調値                      | 0.1%          |
|           | 16:00 | ドイツ  | 10月     | 貿易収支 (EUR) 季調値                   | 13.2 (十億)     |
|           | 22:30 | 米国   | 月29日, 週 | 新規失業保険申請件数                       |               |
|           | 22:30 | 米国   | 月22日, 週 | 継続失業保険受給総数                       |               |
| 12月10日(金) | 0:00  | 米国   | 10月     | 卸売在庫(前月比)                        | 2.2%          |
|           | 2:00  | 米国   | ---     | USDA需給報告                         |               |
|           | 8:50  | 日本   | 11月     | 企業物価指数                           | 1.2%          |
|           | 16:00 | ドイツ  | 11月     | 消費者物価指数 (CPI) 改定値                | -0.2%         |
|           | 16:00 | ドイツ  | 11月     | EU 基準消費者物価指数 (HICP) 改定値          | 0.3%          |
|           | 16:00 | 英国   | 10月     | 国内総生産 (GDP) 予測値                  | 1.3%          |
|           | 16:00 | 英国   | 10月     | 鉱工業生産                            | -0.4%         |
|           | 16:00 | 英国   | 10月     | 製造業生産                            | 0.1%          |
|           | 16:00 | 英国   | 10月     | 貿易収支 (GBP)                       | -14.736 (十億)  |
|           | 22:30 | 米国   | 11月     | 消費者物価指数 (CPI)                    | 276.589       |
|           |       | 中国   | 11月     | 社会融資総量                           | 1,590.00 (十億) |
|           |       | 中国   | 11月     | マネーサプライ M2 (前年比)                 | 8.7%          |
|           |       | 中国   | 11月     | 人民元建て新規融資                        | 826.2 (十億)    |
|           |       | 中国   | 11月     | 人民元建て融資残高(前年比)                   | 11.9%         |
| 12月11日(土) | 0:00  | 米国   | 12月     | ミシガン大 消費者信頼感指数 速報値               | 67.4          |
|           | 5:30  | 米国   | 前週分     | CFTC建玉明細                         |               |
| 12月12日(日) |       |      |         |                                  |               |

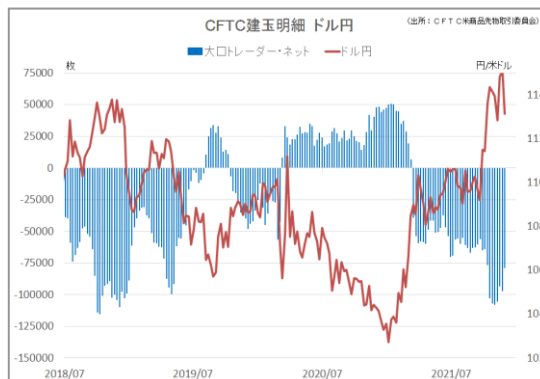
当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社 に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

## 【騰落率(月間・週間)】

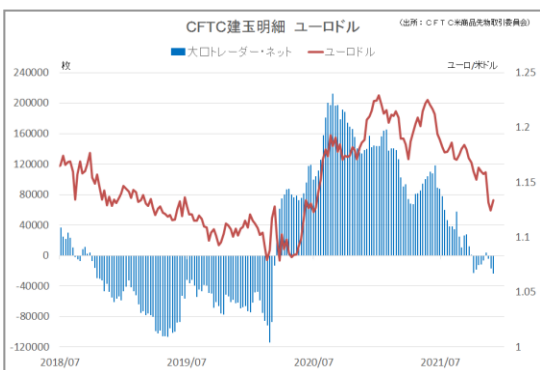


当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

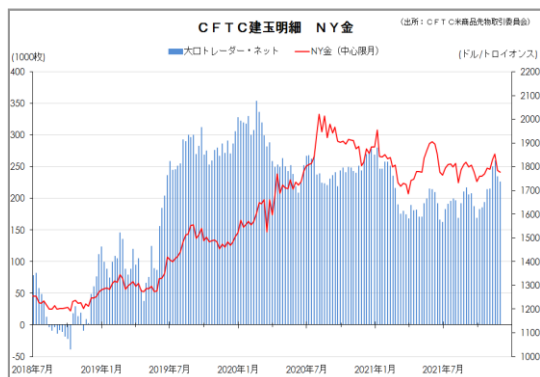
## 【CFTC建玉明細】



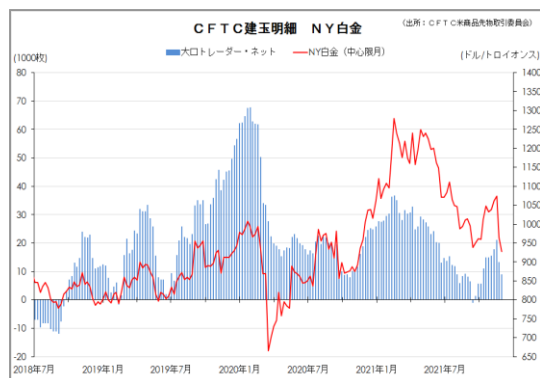
| 日付         | 大口投機玉  |         |                      | 終値     |
|------------|--------|---------|----------------------|--------|
|            | ロング    | ショート    | 差引枚数<br>(ロング - ショート) |        |
| 2021/11/2  | 20,337 | 127,961 | -107,624             | 113.95 |
| 2021/11/9  | 16,440 | 121,791 | -105,351             | 112.85 |
| 2021/11/16 | 24,635 | 117,761 | -93,126              | 114.82 |
| 2021/11/23 | 20,285 | 117,538 | -97,253              | 115.12 |
| 2021/11/30 | 14,585 | 93,451  | -78,866              | 113.13 |
| 前週比        | -5,700 | -24,087 | 18,387               | -1.99  |



| 日付         | 大口投機玉   |         |                      | 終値     |
|------------|---------|---------|----------------------|--------|
|            | ロング     | ショート    | 差引枚数<br>(ロング - ショート) |        |
| 2021/11/2  | 191,496 | 197,634 | -6,138               | 1.1577 |
| 2021/11/9  | 192,544 | 188,771 | 3,773                | 1.1591 |
| 2021/11/16 | 198,181 | 202,007 | -3,826               | 1.1319 |
| 2021/11/23 | 204,214 | 220,666 | -16,452              | 1.1246 |
| 2021/11/30 | 191,048 | 214,288 | -23,240              | 1.1336 |
| 前週比        | -13,166 | -6,378  | -6,788               | 0.0090 |



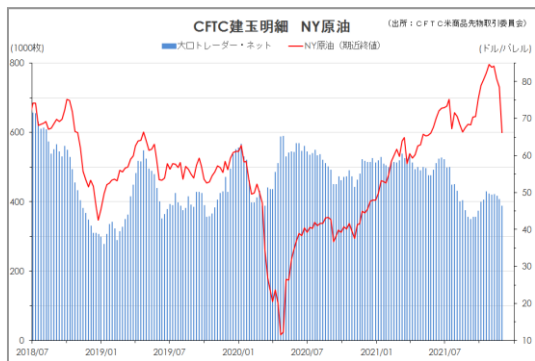
| 日付         | 大口投機玉   |         |                      | 中心限月<br>終値 |
|------------|---------|---------|----------------------|------------|
|            | ロング     | ショート    | 差引枚数<br>(ロング - ショート) |            |
| 2021/11/2  | 311,091 | 95,962  | 215,129              | 1789.4     |
| 2021/11/9  | 341,111 | 90,930  | 250,181              | 1830.8     |
| 2021/11/16 | 360,529 | 100,749 | 259,780              | 1854.1     |
| 2021/11/23 | 326,409 | 91,998  | 234,411              | 1783.8     |
| 2021/11/30 | 310,253 | 84,393  | 225,860              | 1776.5     |
| 前週比        | -16,156 | -7,605  | -8,551               | -7.3       |



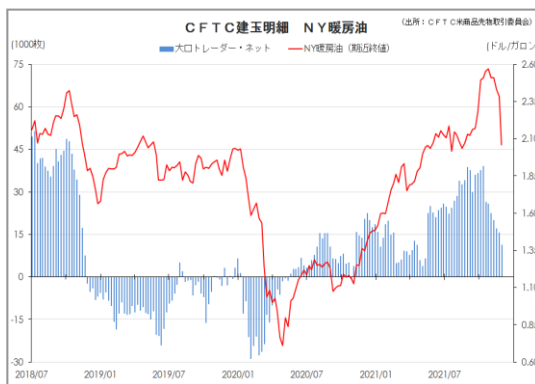
| 日付         | 大口投機玉  |        |                      | 中心限月<br>終値 |
|------------|--------|--------|----------------------|------------|
|            | ロング    | ショート   | 差引枚数<br>(ロング - ショート) |            |
| 2021/11/2  | 28,870 | 13,506 | 15,364               | 1039.3     |
| 2021/11/9  | 30,260 | 12,630 | 17,630               | 1061.4     |
| 2021/11/16 | 33,266 | 12,253 | 21,013               | 1074.5     |
| 2021/11/23 | 30,454 | 17,319 | 13,135               | 964.2      |
| 2021/11/30 | 28,408 | 19,460 | 8,948                | 927.3      |
| 前週比        | -2,046 | 2,141  | -4,187               | -36.9      |

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

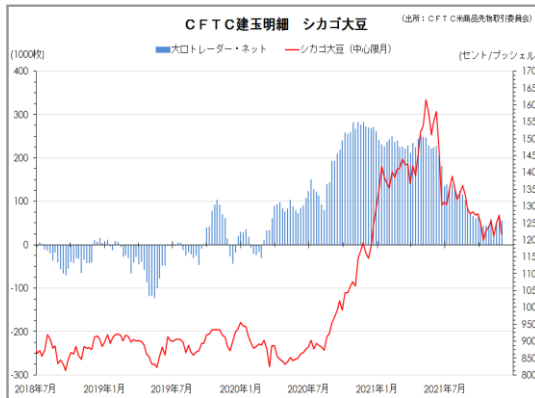
## 【CFTC建玉明細】



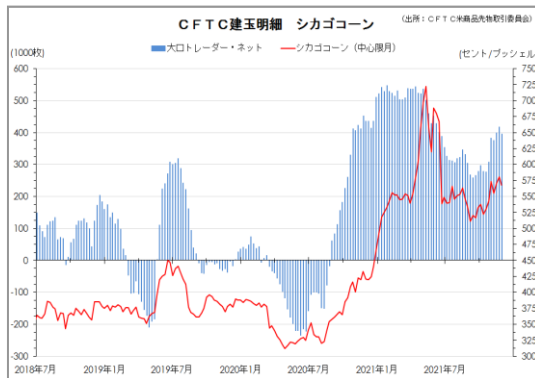
| 日付         | 大口投機玉   |         |                      | 期近終値   |
|------------|---------|---------|----------------------|--------|
|            | ロング     | ショート    | 差引枚数<br>(ロング - ショート) |        |
| 2021/11/2  | 548,631 | 129,338 | 419,293              | 83.91  |
| 2021/11/9  | 552,579 | 131,267 | 421,312              | 84.15  |
| 2021/11/16 | 510,169 | 94,384  | 415,785              | 80.76  |
| 2021/11/23 | 510,586 | 102,929 | 407,657              | 78.5   |
| 2021/11/30 | 511,862 | 124,628 | 387,234              | 66.18  |
| 前週比        | 1,276   | 21,699  | -20,423              | -12.32 |



| 日付         | 大口投機玉  |        |                      | 期近終値    |
|------------|--------|--------|----------------------|---------|
|            | ロング    | ショート   | 差引枚数<br>(ロング - ショート) |         |
| 2021/11/2  | 62,233 | 39,849 | 22,384               | 2.5082  |
| 2021/11/9  | 54,200 | 34,178 | 20,022               | 2.5081  |
| 2021/11/16 | 53,501 | 36,472 | 17,029               | 2.4309  |
| 2021/11/23 | 50,383 | 34,752 | 15,631               | 2.3823  |
| 2021/11/30 | 41,864 | 30,639 | 11,225               | 2.0603  |
| 前週比        | -8,519 | -4,113 | -4,406               | -0.3220 |



| 日付         | 大口投機玉   |        |                      | 中心限月<br>終値 |
|------------|---------|--------|----------------------|------------|
|            | ロング     | ショート   | 差引枚数<br>(ロング - ショート) |            |
| 2021/11/2  | 135,938 | 77,182 | 58,756               | 1256.25    |
| 2021/11/9  | 123,904 | 96,320 | 27,584               | 1212.00    |
| 2021/11/16 | 132,364 | 85,447 | 46,917               | 1251.25    |
| 2021/11/23 | 143,021 | 76,807 | 66,214               | 1273.00    |
| 2021/11/30 | 129,653 | 74,336 | 55,317               | 1217.25    |
| 前週比        | -13,368 | -2,471 | -10,897              | -55.75     |



| 日付         | 大口投機玉   |         |                      | 中心限月<br>終値 |
|------------|---------|---------|----------------------|------------|
|            | ロング     | ショート    | 差引枚数<br>(ロング - ショート) |            |
| 2021/11/2  | 482,734 | 99,625  | 383,109              | 573.00     |
| 2021/11/9  | 476,313 | 101,015 | 375,298              | 554.75     |
| 2021/11/16 | 504,851 | 105,665 | 399,186              | 571.00     |
| 2021/11/23 | 526,890 | 109,801 | 417,089              | 580.50     |
| 2021/11/30 | 474,354 | 79,442  | 394,912              | 567.50     |
| 前週比        | -52,536 | -30,359 | -22,177              | -13.00     |

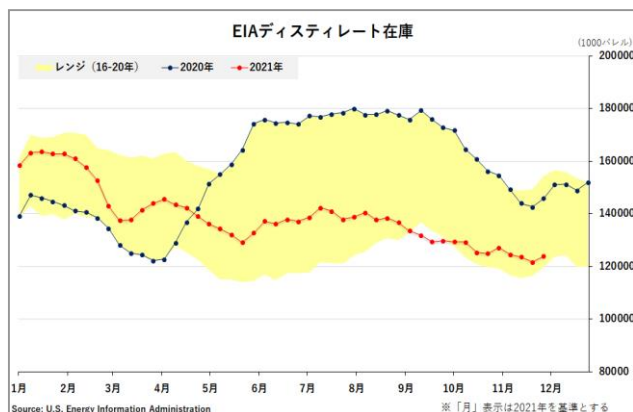
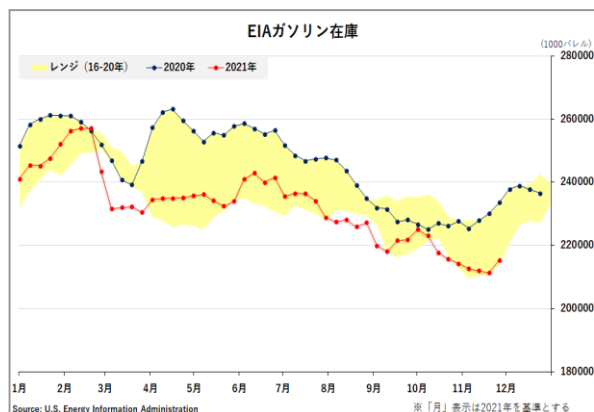
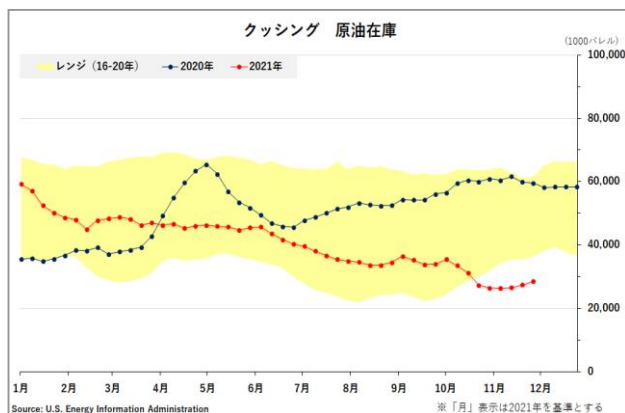
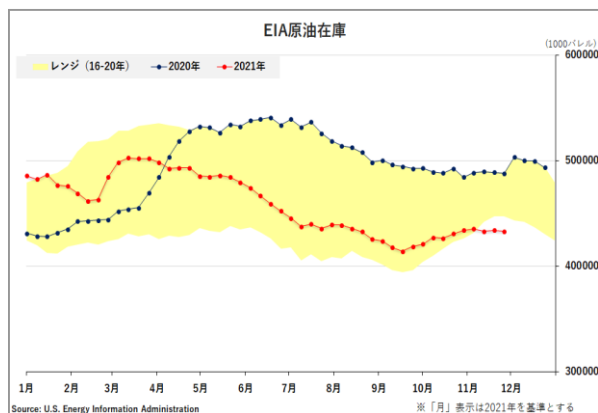
当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはおりますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

## 【金ETF (SPDR)】



| 日付         | 金保有高(トン) | 前営業日比 |
|------------|----------|-------|
| 2021/12/3  | 984.38   | -1.79 |
| 2021/12/2  | 986.17   | -4.65 |
| 2021/12/1  | 990.82   | -2.03 |
| 2021/11/30 | 992.85   | ±0    |
| 2021/11/29 | 992.85   | ±0    |
| 2021/11/26 | 992.85   | +1.74 |
| 2021/11/24 | 991.11   | ±0    |

## 【EIA在庫】



当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

## 【留意事項】

当社が取り扱っている金融商品等にご投資いただく際には、各商品等に所定の手数料や諸経費等をご負担いただく場合があります。また、各商品等には価格の変動等により損失を生じる恐れがあります。商品や取引によっては、投資元本を超える損失が発生することがあります。各商品等ごとに手数料等及びリスクは異なりますので、各商品等へのご投資にかかる手数料等及びリスクについては、当該金融商品等の取引概要やリスク説明等、契約締結前交付書面、目論見書、お客様向け資料等を十分にご確認ください。

<商号等> 日産証券株式会社（〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町1-38-11）

金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第131号 商品先物取引業者

<加入協会> 日本証券業協会、日本商品先物取引協会、一般社団法人金融先物取引業協会

当資料は情報提供を目的としており、弊社取扱商品に係る売買を勧誘するものではありません。内容は、正確性、完全性に万全を期してはおりますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い致します。